

島根が生んだ
石田種生の世界
バレエ公演
～くるみ割り人形～
TANEO ISHIDA



島根が生んだ石田種生の世界実行委員会
〒690-0876 島根県松江市黒田町248-1 TEL 0852-31-3173 FAX 0852-67-2267

しまね文化ファンド ほうぎん文化振興財団
助成事業 助成事業

TANEO ISHIDA
95th
TANEO ISHIDA
石田種生
生誕95周年記念公演



島根が生んだ
石田種生の世界
バレエ公演
～くるみ割り人形～
The Nutcracker

The Nutcracker



島根が生んだ 石田種生の世界

バレエ公演
～くるみ割り人形～

2023.10.9 [mon・祝] 開場14:20 / 開演15:00

島根県民会館 大ホール

◇特別展示◇

2023.10.7 [Sat・9 [mon・祝] 島根県民会館 大ホール ホワイエ

これだけバレエ界で功績を残された石田種生の名前を幼いころから知っていた私。

念願がなって直接ご指導いただく機会を得たのは私のスクール開校10年目のことだった。

「島根でバレエをやるのは大変だろう」と言う先生に食らいついていくことしか頭になかった私。

「いいんだ。島根でバレエをやるのが大変なのは僕が一番よくわかっている。」と静かにお答えになった種生先生。

自分の感性の元となったこの島根に貢献したかったであろう先生の思いを今、島根の皆さんと共有し、島根での生活こそが人生をより豊かなものにしてけると自信にして欲しい。

生誕100周年はもちろん、その先までも、この活動が島根の文化発展の礎となることを目指して参ります。

島根が生んだ石田種生の世界実行委員会 代表

若佐 久美子



Tatsuya Mruyama

島根県知事
丸山 達也



Katsuko Okamoto

公益社団法人 日本バレエ協会
会長
岡本 佳津子

祝 辞

石田種生先生の生誕95周年を記念した舞台「島根が生んだ石田種生の世界『くるみ割り人形』」が開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

石田先生は大田市のご出身で、大学時代からバレエに取り組み、松山バレエ団や自ら創設された東京シティ・バレエ団などで数多くの作品に出演されました。また、振付家としても、「枯野」「祇園祭」など日本の風土に根ざした創作バレエを次々に発表され、海外も含む数多くのバレエ団に振付作品を提供されるなど、生涯にわたって精力的に創作活動を続けられ、日本トップクラスの振付家・舞踏家として戦後日本のバレエの発展に大いに貢献されました。

当時の島根県はまだ、バレエという文化に馴染みのない地域でしたが、地元の文化発展に貢献したいと願い普及活動に取り組み、現在は、その思いを「島根が生んだ石田種生の世界実行委員会」の皆様が受け継ぎ、島根で育つ若者たちへ夢と希望を伝え続けておられます。

今回の上演は、1999年に石田先生が直接ご指導・振付された作品を再現するもので、出雲市出身でロシアのイジェフスクオペラバレエ団でご活躍されていた上野瑞季さんの他、先生が島根に帰省された際に指導を受けた経験があるダンサー、島根で研鑽を積む若手ダンサーの皆様が出演されます。

この公演が、多くの県民の皆様へ感動を与え、島根のバレエのさらなる発展につながることを期待しております。終わりに、公演の開催にご尽力されました関係の皆様とご出演の皆様へ深く敬意を表しますとともに、ご来場の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とします。



祝 辞

石田種生先生が御存命ならば95歳になられる本年、記念のバレエ公演「島根が生んだ石田種生の世界『くるみ割り人形』全幕」が開催されますことを心より嬉しく思っております。

1988年3月、先生が事故によって頭蓋骨骨折、脳挫傷、左下腿骨骨折などの大怪我をされて、入院手術された事を忘れる事が出来ません。

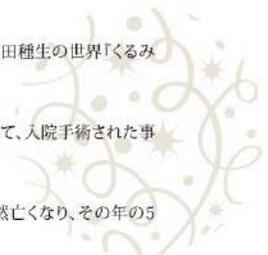
その一ヶ月前の2月13日に、私共井上バレエ団の創設者井上博文氏が52才の若さで突然亡くなり、その年の5月には、私自身が乳ガンの手術を受けたりした年でした。

石田先生は、どんなに大変な手術を受けられ、どんなに辛い治療を受けられたか計り知れませんが、奇蹟的に回復され、すぐに創作活動に励まれるようになりました。

私は何故か運命・宿命というようなことを感じたものでした。この年の世の中はリクルート事件があったり、昭和天皇の御具合が悪くなり年を越えて年号が平成と変わった頃でした。そして、1999年若佐久美子バレエスクール10周年記念公演で『くるみ割り人形』全幕を振り付けされたのです。今回その『くるみ割り人形』を若佐先生が再現され、生誕95周年の記念公演となされます。

主演のマーシャには、長い間ロシア国内のバレエ団で活躍された上野瑞季さん、王子には、貞松・浜田バレエ団の水城卓哉さん、そしてドロツセルマイヤーには、貞松・浜田バレエ団の武藤天華さんが演じられます。その他、直接石田先生から指導を受けられた方々と島根で研鑽を積んでおられる若いダンサーの方々によって、石田種生の世界がくり広げられます。

先生のお名前のように先生が蒔かれた種が先生の芸術をつなぎ、次の世代へと受け継がれて行くように生かされて行く事が素晴らしいと思っております。公演の成功を願い、お祝い申し上げます。





Etsuko Adachi

公益財団法人東京シティ・バレエ団

芸術監督 理事長

安達 悦子



Naomi Inata

桜美林大学芸術文化学群准教授

稲田 奈緒美

祝 辞

石田種生先生の生誕95周年を記念し、若佐久美子先生を中心に「島根が生んだ石田種生の世界」実行委員会により、『くるみ割り人形』の公演が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

島根県大田市出身の種生先生は慶應義塾大学在学中に慶應バレエ研究会でバレエと出会い、その後、松山バレエ団で日本を代表するダンスール・ノーブルとして活躍しながら振付もはじめ、舞踊作家としての地位を確立されました。そして、東京シティ・バレエ団の創立メンバーとして、1968年から2012年にお亡くなりになるまで、バレエ団を牽引してくださいました。

私は、種生先生と小学生の時に広島で出会い、松山バレエ団でも先生の作品に触れ、慶應に在学したご縁でバレエ研究会での先生のことも知ることができました。東京シティ・バレエ団に入団してからは本当にお世話になり、父と同じ歳の種生先生はバレエの父とも呼べる存在でした。今、先生から学んだことが全てが支えとなっています。

東京シティ・バレエ団は、今年創立55周年を迎えました。種生先生のレガシー「白鳥の湖」全幕を、山形、広島、仙台(名取)、小山(栃木)で上演します。多くの方に先生の作品を見ていただきたいと思っています。

この度、先生の故郷の地で『くるみ割り人形』が上演されますこと、嬉しく存じます。

若佐先生のバレエスクール10周年記念公演で、種生先生が直接指導され上演された作品とのことですので、種生先生の思いがたくさん詰まった舞台となる事でしょう。若佐先生の下、イジエフスクオペラバレエ団で活躍の上野瑞季さんと島根のダンサー達が素晴らしい『くるみ割り人形』を作り上げてくださると思います。

公演のご成功を心よりお祈りいたします。



祝 辞

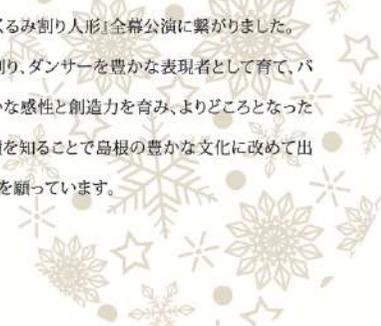
バレエやダンスなどの身体表現には、言葉では表現できない複雑で繊細な思いを瞬時に視覚化し、見る人の心へダイレクトに伝える力があります。その一瞬が目に焼き付き感動が消えない。それが人生に影響を及ぼすこともあります。

私は1960年代の松江で生まれ育ちました。子供のころ市内には複数のバレエ教室があり、伊東秀樹モダンバレエ団に通い始めたものの数年でやめてしまいました。ところが中学生の時、山本理子バレエ学園の発表会で『お夏・清十郎』という創作バレエを見て感動し、高校から再び習い始めました。しかし生来の怠け者ゆえバレエから遠ざかっていた大学時代、東京シティ・バレエ団の「エスメラルダ」を見て、再び衝撃を受けました。ノートルダムの鐘つき男カジモドの悲しみを全身で表現した本多実男さんの踊りは、今でも忘れられません。この「お夏・清十郎」、「エスメラルダ」を振付けたのが石田種生先生でした。

偶然ですが石田先生のご実家と、私の父の実家は2軒隣で幼馴染。母方の叔父とは、大田高校野球部で親友同士だったそうです。不思議なご縁に導かれて、石田先生に接することができたのは私の財産です。スタジオでのよく通る大きな声、的確な言葉でイメージを伝えながら指導する姿、そして豊富な知識と語彙から紡がれる巧みな文章など、優れたバレエ人であり文化人でした。

石田先生の没後、残された膨大な資料、振付ノートなどを研究、活用するために「石田種生コレオグラフィー・アーカイヴズ」を作成しました。その過程で若佐久美子先生、大田市役所の野島智美さんたちと出会ったことから、石田先生の功績を伝える機会を次々と作ることになり、今回の『くるみ割り人形』全幕公演に繋がりました。

石田先生は、西洋の模倣に留まらないオリジナルのバレエ作品を創り、ダンサーを豊かな表現者として育て、バレエから派生する文化について優れた文章を残しました。その豊かな感性と創造力を育み、よりどころとなったのは島根の伝統文化であり、日常の生活文化です。石田先生の功績を知ることによって島根の豊かな文化に改めて出会い、誇りに思い、新たな芸術創造へ、充実した日常へと繋がることを願っています。



くるみ割り人形〈プロローグつき全二幕〉

～少女マーシャがもらった素敵な夢の物語～



チャイコフスキーの三大バレエといわれている〈白鳥の湖〉〈眠れる森の美女〉〈くるみ割り人形〉を並べてみると、どれも民話や童話を題材にしていることに気づく。

〈白鳥の湖〉は、世界中どこの国にでもある「白鳥伝説」、〈眠れる森の美女〉は、フランスの童話作家シャルル・ペローのお伽話集「ガチョウおばさんの話」。そして、このくるみ割り人形は、ドイツ・ロマン派の作家で作曲家・漫画家でもあったエルンスト・ホフマンの童話「くるみ割り人形とねずみの王様」が原本になっている。

しかし、このバレエ台本の直接の手引きになったのは、それをもとに三幕三場の戯曲に仕立てたフランスの劇作家デュマ・フィスの「くるみ割り人形の話」がそれで、それを種本にして、振付者マリウス・プティパが書いた。

チャイコフスキーがその台本を手渡され、帝室マリンスキー劇場（現在のサンクトペテルブルク・キーロフ劇場）の支配人フセウオロジンスキーから作曲の依頼をうけたのは1890年、彼が50歳の時であった。

この作曲の話がもちあがった時、彼はすでにホフマンの原本を読んでいて、これはとてもバレエにはなるまいと思っていたが、原本が巧みにアレンジしてあるプティパの台本をみて（一説によれば、子どもが出演するのに興味をもったらしい）承諾した。

その頃のチャイコフスキーは私生活の上では、彼に月々金を送りつづけてくれたパトロンメック夫人との離別。

仕事の上では、デンマークの作家ヘルツの戯曲『レネ王の娘』に取材した一幕物のオペラ〈イオランタ〉（彼の最後のオペラ）と第6交響曲の作曲、さらにニューヨークのカーネギー・ホールでのこけら落しでの自作の演奏会などをひかえていて、内憂外患、多忙を極めた時期であった。

1891年1月、第一幕の「粉雪のワルツ」から作曲にとりかかったが、作業は予想以上にはかどり、2ヶ月ほどで第一幕の草稿をまとめあげる。そして、チャイコフスキーは、1891年3月18日予定通り、アメリカへ演奏旅行へ出掛け、その途中でたち寄ったパリのある楽器店で、チェレスタという当時は珍しい楽器を見つける。

1886年ミュステルによって製作されたばかりのこの楽器は、もちろんロシアにはまだ伝わっていない。その魅惑的な音色にほれこんだ彼は〈くるみ割り人形〉の音楽にこれを使おうと思い、即座に240ドル払って買い求め、友人あてにこんな手紙を書き送った。

「お願いだから、このチェレスタは誰にも見せないでほしい。特にリムスキー＝コルサコフとグラズナーフには要注意。彼らより私の方が先に使いたいものだから……」

このチェレスタは、第二幕の「こんぱい餅の精」の曲に使用され、すばらしい効果をあげている。

6月初旬に帰国したチャイコフスキーは、1ヶ月ほどで全幕のピアノ・スコアを完成したが、オーケストレーションに手間どり、二幕三幕のこのバレエの総譜を脱稿したのは翌

石田 種生

Taneo Ishida

1929年、島根県大田市の老舗料亭「仁万屋」の5男として生まれた。1950年、慶応義塾大学文学部美学科へ進学し、そこでバレエを始める。1954年、松山バレエ団に入団し、『白毛女』『祇園祭』などの創作作品や『パフチサイの泉』などに出演した。1968年、東京シティ・バレエ団創設に参加。1970年、文化庁派遣在外芸術研究員として世界を巡った時、「文化、芸術を生み出すのは、その国の風土だ」と気づき、ヨーロッパで生まれたバレエの枠にとらわれず、日本の風土を生かした創作に励む。その後、原爆をテーマにした『ヒロシマのレクイエムーうしろの・しょうめん・だあれ』や『女面』『お夏・清十郎』などを発表。全幕バレエとしては『エスメラルダ』『白鳥の湖』などがある。また、スイス、アメリカ、韓国などのバレエ団から振付を委託され好評を得た。1980年代にはバイク事故により瀕死の重傷を負うが、度重なる手術とリハビリを経て復活し、東京新聞舞踊芸術賞や橘秋子賞特別賞といった舞踊界の権威ある賞だけでなく、旭日小綬章、紫綬褒章も受賞している。2012年、肺がんにより永眠。83歳。

1892年4月6日であった。

振付けは、その年の8月から開始されたけれども、すでに74歳になっていたプティパの健康はすぐれず、一時中断。9月に入ってから次期振付家のイワーノフに引き継がれた。11月17日、マリンスキー劇場に、時の皇帝アレクサンドル3世の臨席をあおぎ、チャイコフスキーの新作オペラ〈イオランタ〉とくるみ割り人形の2本立てでジェネラル・リハーサル。そして、1892年12月6日に初日の幕をあげ、18日まで続演された。

初演の評判は、「これほど立派な音楽が、注目に値しない作品に使われているのは嘆かわしいことだ。音楽は、概してすぐれている。踊りのための音楽は睡っており、聞き心地よい幻想的な音楽は独創的だ。チャイコフスキーの3つのバレエ曲のなかでは、これが一番いい。普通のバレエの観客のための音楽ではないけれども」と、音楽は好評だったが、踊り方はそれほどでもなかったようだ。子どもを主体とした第一幕、待ちくたびたところにやっと出てくる第二幕のグラン・パド・ドゥなど、当時のバレエの常識からすれば型破りで観客になじまなかったのだろう。

ともあれ、その後は、1919年ゴルスキーの改訂版がボリショイ劇場で上演されたことはあったものの、全幕を上演される例は少なく、主にバレエ組曲として命脈をたもっていたが、1934年2月18日キーロフ劇場で上演されたワシリイ・ワイノネンの新演出（プロローグつき三幕六場）に

よって完全に息を吹きかえした。

現在、世界各国で、得にクリスマス・シーズンに上演されているいろいろなくるみ割り人形のほとんどは、このワイノネン版をもとにしている。日本でも1961年、旧東京バレエ学校創立一周年記念公演で、メッセレル・ワルラーモフの指導によって、この版が紹介された。

ちなみに、日本でのくるみ割り人形は1953年、貝谷八百子振付けによる同バレエ団の上演が最初である。くるみ割り人形は、〈白鳥の湖〉や〈眠れる森の美女〉とは違って、平凡な一人の少女の夢を描いた作品である。

私は冒頭で、これらの3つの作品はどれも民話や童話を題材にしている。と書いた。そうであっても、このバレエは何処にでもいそうな少女を主役にしていて際立っている。そして、その少女の夢は、口の大きな見にくい顔をした「くるみ割り人形」へのやさしい思いやりから無限に広がっていく。

この作品は、物を物としてしか見ない、物との語りあいをなくしてしまった私たち現代人への警告を含んでいるのではないかと—そんなことを考えながら、これを振付けた。方々からひと癖もふた癖もありそうな、つまり個性的な踊り手が集まってきてくれたことに深く感謝している。

プロローグ

19世紀初めのドイツ、ニュールンベルクの町。

今日はクリスマス・イブ。シルバーハウス家のクリスマス・パーティーに招かれた人たちが、雪の降る道をいそいそと通り過ぎていく。シルバーハウス家と親しい裁判所の判事ドロッセルマイヤーも手造りのくるみ割り人形を携えて急ぎ足。

ドロッセルマイヤーは器用な人で、いろいろなゼンマイ仕掛けの人形を造ったり、手品をしてみせたりして、このパーティーではいつも子どもたちを有頂天にさせている。そして、シルバーハウス家の娘マーシャの名付け親でもあった。

第一幕

シルバーハウス家の客間

中央に大きなクリスマス・ツリーが飾られ、客間は大層にぎやか。そこへプレゼントを貰った子どもたちが駆けこんでくる。

ツリーに灯がともされ、シルバーハウス家の子どものフランツとマーシャがツリーに祈りの星を捧げると、早速子どもたちが踊りだし、続いて客人たちも踊り、盛り上がったところへ突然、魔術師のような奇妙な格好をしたドロッセルマイヤーが飛び出してくる。

この闖入者の出現に、子どもたちは一瞬ギョッとすくけれど、それがドロッセルマイヤー小父さんだと分ると、はしゃいで付きまとい、何か面白いことやってくれるよう、ねだる。彼はちょっと考えてから、衝立を持ち出させ、その中からイタリア喜劇でよく知られている、アルルカン、コロンビーヌ、そしてムーア人の人形を次ぎ次ぎ登場させて、滑稽な踊りを踊らせる。子どもたちは拍手喝采して大喜び。

この余興がすんで、客人たちと子どもたちが別室に去ったあと、フランツとマーシャはドロッセルマイヤーに、もっと面白いことをせがむ。ドロッセルマイヤーは二人をじらしてから、取って置きにくるみ割り人形を見せる。この人形は口が大きく見難い顔をしているけれど、可愛い身振りで踊りだす。マーシャがそれに魅せられて一緒にポルカを踊ると、フランツが割って入って乱暴に振りまわし、人形を壊してしまう。

悲しむマーシャをなぐさめたドロッセルマイヤーは人形を手早く直して、マーシャに抱かせる。

別室でくつろいでいた客人たちが、一杯機嫌で現れ、陽気にロンドを踊る。

ふと見ると部屋のフクロウ時計は10時をまわっている。客人と子どもたちは、来る年の幸福を言い交しながら帰って行く。

家路につく人たち。

ドロッセルマイヤーは、名残りおしようにシルバーハウス家の方を振り返り、もの思いにふける。きっと彼の心のなかにマーシャのことが去来してきたのだろう。

月の光だけが、ひそかにさしこむ客間。

一度は寝室に入ったマーシャが燭台を持って、くるみ割り人形を探しに忍び足で出て来て、それを見つけると優しく抱き、静かな眠りにはいり、夢をみる。

マーシャの夢

何処からともなく、忽然とドロッセルマイヤーが現れ、マーシャの夢を膨らます。クリスマス・ツリーが見る見る大きくなり……と、ネズミの王様が率いるネズミの一群が走りまわり、くるみ割り人形を隊長としたオモチャの兵隊の戦いが開始された。

さあ、大変。

くるみ割り人形は勇敢にネズミの王様に立ち向かうけれど、押し倒されてあわや……というその時、マーシャは思わず自分の腕

でいたスリッパを、憎いネズミの王様めがけて投げつける。王様が一瞬ひるんだその隙に、くるみ割り人形は相手の腕を刺し、ネズミの大群は退散。くるみ割り人形は力尽きて、その場に倒れこむ。

それを開んで、アルルカン、コロンビーヌ、ムーア人の人形が悲しんでいると、ドロッセルマイヤーの魔法で、くるみ割り人形は涼々しい王子に蘇る。

王子とマーシャの手をたずさえて、粉雪の精達が華麗に舞う広野に出る。

そしてマーシャは王子にいざなわれ、粉雪の精に送られながら、お菓子の国へと旅立って行く。

第二幕

マーシャと王子はくるみの殻で造った舟に乗って海を渡り、襲いくる試練に耐えながら旅を続ける。地の果てまでも執念深く追っかけてくるネズミと王様。王様が再び二人に切り込んできた時に、マーシャはくるみ割り人形の王子と生死を共にする覚悟で敢然と立ち向かい、王子はマーシャに手渡された剣でネズミの王様を刺し、王様は息絶える。

すると、その時、幻のように明るいお菓子の国が現れてくる。

お菓子の国に迎えられたマーシャは、王子から感謝のしるしに冠を贈られる。王子の合図で、お菓子たちの踊りが繰り広げられていく。

- チョコレートの踊り ……………スペイン舞踊で表現される。
- コーヒーの踊り ……………アラビアの踊り。アラビア半島のイエメン王国の踊りで、モカ・コーヒーを表している。
- お茶の踊り ……………中国の踊り。
- クッキーの踊り ……………ロシア舞踊のトレパック。
- 芦笛の踊り ……………芦笛はオモチャの笛とも羊飼いの笛ともいわれている。
- キャンディー・ケーキの踊り ……………豊饒、豊かさを表している。
- 花のワルツ ……………平和の踊り。
- グラン・パド・ドゥ ……………愛の賛歌。
- ヴァリアシオン ……………王子の踊り。
- ヴァリアシオン ……………金平糖の精の踊り。
- コーダ ……………王子と金平糖の精の踊り。
- 終幕のワルツとアボテオーズ ……みんなが王子と金平糖の精の愛を祝福する。

シルバーハウス家の客間

クリスマスの夜、素晴らしい愛の旅に出たマーシャは夢からさめ、くるみ割り人形をしっかりと抱いて、新しい朝を迎える。



配役表



上野 瑞季 Mizuki Ueno 出雲市出身 (元イジェフスクオペラバレエ団)
[マーシャ]

出雲市のフィユバレスクール、星野富貴のもとでバレエを始める。
2010年から2013年までロシア国立ボリショイバレエアカデミーで学ぶ。
卒業後、ロシア国立プリヤート オペラ・バレエ団に入団、翌年ソリストに昇進、2017年より、ロシア国立イジェフスク オペラ・バレエ団にソリストとして入団する。
主なレパートリーは、『ジゼル』よりジゼル、『くるみ割り人形』よりマーシャ、コロンビーヌ、草笛の踊り、『眠れる森の美女』よりオーロラ姫、優しさの精、『白鳥の湖』よりオデットオデール、4羽の白鳥、『ドン・キホーテ』よりキトリ、森の女王、『テッポリーノ』よりマグノリア、『ラ・バヤデール』よりニキヤ、影の王国ソリストを務め、2019年に『ロミオとジュリエット』の初演にて、主役のジュリエット、2020年に『海賊』の初演にて、主役のメドゥーラを務めた。
その他、2014年韓国国際バレエコンクールにてテクニク賞、2015年全日本バレエコンクールシニアの部にて第2位、2016年ベルミ国際バレエコンクール《アラバスク》にて、ジョージゾーリッチ賞などを受賞する。



水城 卓哉 Takuya Mizuki (貞松・浜田バレエ団)
[王子]

10歳より三島裕子バレエスクールでバレエを始める(福岡県北九州市)。2007年貞松・浜田バレエ団に入団。2009年からは主演も務める。
2013年新国立劇場地域招聘公演の『くるみ割り人形』お伽の国 全幕にて主演を務める。『NHK バレエの饗宴 2014』『NHK バレエの饗宴 2017』に貞松・浜田バレエ団の主役として出演する。
バレエ団以外にも、ひょうご洋舞フェスティバル『 Coppélia 』全幕にて主演するなど多方面で活躍する。『白鳥の湖』『ロミオとジュリエット』『ドン・キホーテ』など様々な作品でバレエ団の主役を務めている。
2021年 第27回 中川鋭之助賞 受賞
クラシック以外にも、
・ジョージ・バランシン振付『アレグロ・プリランテ』『セレナーデ』
・イリ・キリアン振付『Petite Mort』『6 DANCES』
・オハッド・ナハリン振付『DANCE』
・アレクサンダー・エクマン振付『CACTI』
・森 寛貴 振付『死の島』『黒い雨』『因われの国のアリス』 などの作品に出演。



武藤 天華 Tenka Muto (貞松・浜田バレエ団)
[ドロッセルマイヤー]

1991年よりバレエを始める。藤木俊彦、貞松正一郎に師事。2001年貞松・浜田バレエ団に入団。以降バレエ団公演にて、『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』『ジゼル』『ドン・キホーテ』『Coppélia』『ロミオとジュリエット』などの主要な役を踊る。
2007年モナコ公園・プリンセス・グレース・クラシック・ダンス・アカデミーに短期研修する。
同年、バレエ団公演『創作リサイタル』のオハッド・ナハリン振付『Black Milk』で、文化庁舞踊部門 新人賞を受賞。
2005年 第10回アジア・パシフィック国際バレエコンクールシニア入賞1位
2006年 第63回全国舞踊コンクール パド・ドゥの部 第3位
2006年 第17回全日本バレエコンクールシニア第1位。

ゲストプロフィール

Guest Profile



川村 康二 Kouji Kawamura (貞松・浜田バレエ団)

1983年、貞松・浜田バレエ学園にてバレエを始め、1990年に同バレエ団へ入団。古典作品の他、S.ウエルチ振付『A Time To Dance』、A.チューダー振付『コンティメオ』、O.ナハリン振付『BLACK MILK』、遠原宏樹振付『タチアナとオネーギン』、後藤早知子振付『アンネの日記』、森寛貴振付『冬の旅』等に出演。最近では『白鳥の湖』のロットバルト、『くるみ割り人形』のドロッセルマイヤー、『ドン・キホーテ』のドン・キホーテ、『Coppélia』のCoppéarius、『ロミオとジュリエット』のティボルト、『海賊』のバシャ等、多数のキャラクターを演じている。またオペラ『椿姫』のバレエ場面の振付、及び出演もしている。現在は兵庫県立宝塚北高等学校演劇科(卒業校)、神戸・甲陽音楽&ダンス専門学校のクラシックバレエ講師も務め、またフルール・ド・レヴズバレエスタジオのアシスタントも行っている。



大門 智 Satoshi Daimon (貞松・浜田バレエ団)

5歳よりクラシックバレエを始める。'05年貞松・浜田バレエ団入団。'06年モナコプリンセス・グレース・ダンスアカデミーのサマースクールに参加。'08-'09年 school of Alberta ballet に留学する。Murray Kilgour に師事。また古典作品だけでなく堤悠輔振付『a creature』『先へ』『青い焔』多数の振付家の作品を踊る。ザ・バレエコン福岡シニア第2位、全国舞踊コンクールバレエパド・ドゥ部門 入賞2位、こくべ全国洋舞コンクールモダン部門第4位。



小森 慶介 Keisuke Komori (貞松・浜田バレエ団)

10歳より赤松優バレエ教室でバレエを始める。11歳で貞松・浜田バレエ学園に入学後バレエ団公演にて様々な古典作品に出演。2017年 Dutch national ballet academyへ留学。2018年 ポーランド Silesia opera ballet に入団。入団1年目にして『ドン・キホーテ』全幕で主役バジルに抜擢される。また、各作品で主要な役を踊る。2021年 同バレエ団を退団後日本に帰国。現在、貞松・浜田バレエ団に所属し関西を拠点に日本各地で活動している。
受賞歴 2015年バレエコン大阪rの部2位、2016年YAGP日本予選3位、全国バレエコンクールin名古屋3位、2017年 YAGP NYfinalに出場、2017年 神戸全国洋舞コンクール第1部2位、2017年 バレエコン大阪シニアの部2位、2018年 バレエコン大阪シニアの部1位、2023年 神戸全国洋舞コンクールシニアの部2位。



切通 理夢 Rimuru Kiritoshi (貞松・浜田バレエ団)

ニュージーランド生まれ育ち、13歳より日本に移住。15歳より貞松・浜田バレエ学園ジュニアバレエ団に入団。バレエ団公演『くるみ割り人形』でフリッツ。『創作リサイタル30』でセイラーズセイリングに出演。『創作リサイタル31』でBach Variations、CACTIに出演。『創作リサイタル32』でOF EDEN、因われの国のアリスに出演。『くるみ割り人形』でフリッツ、ファーメイ『創作リサイタル33』でMalasangre、因われの国のアリスに出演。STAR DANCERS BALLET 貞松・浜田バレエ団 コラボレーション企画でMalasangreに出演。『くるみ割り人形』と秘密の花園でくるみ割り人形『創作リサイタル34』KAMUYOTIに出演。2020年、貞松・浜田バレエ団入団。2018年 こくべ全国洋舞コンクールジュニア1部奨励賞、2019年 こくべ全国洋舞コンクールジュニア1部5位。



弓場 亮太 Ryota Yumiba (奥村京子バレエスクール)

6歳より奥村京子バレエスクールにてバレエを始める。2005年にカナダのアルバータバレエスクールに短期留学をする。

奥村バレエスクールにて「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「シンデレラ」の他に創作バレエも振付する。

2017年 創設者 奥村京子よりバレエスクールを引き継ぐ。



吉田 旭 Asahi Yoshida (宮下靖子バレエ団)

幼少より宮下靖子バレエ学園にて学ぶ。

San Francisco Ballet Schoolに留学、在学中に数々のクラシック、コンテンポラリー作品において主要パートを踊る。帰国後は深川秀夫、石井潤の振付作品に多数出演。また西本智美女史によるイルミナートフィル公演にも長年にわたり参加する。



胡 駿 Jun Hu (馬場美智子バレエ団所属)

2001年国立遼寧バレエ団付属舞踏学校にてバレエを始める。

在学中、国立遼寧バレエ団付属バレエ学校第二回校内コンペティション第1位を受賞するなど優秀な成績を修める。

2007年北京舞踏学院バレエ学部に入學。北京舞踏学院創立55周年記念公演「ドン・キホーテ」全幕に出演。2010年第14回ザ・バレコン名古屋第一位、2010年第三回北京国際バレエコンクール銀賞。卒業後、国立澳門演藝学院付属バレエ団に入団。ダンサー、講師などを経験したのち来日。

現在、バレエ団公演や発表会などの客演として日本全国で幅広く活躍中。



クリスタップス・リンティンシュ Kristaps Lintins (フリー)

ラトビアのリガで、バレエダンサーの父とオペラシンガーの母のもとに生まれる。ミハイル・パルシニコフの師 Juris Kapralisに師事し、クラシックバレエを学ぶ。その後、リガレオグラフィースクールに入學。同校卒業と同時にラトビア国立オペラ入団、ツアーメンバーに抜擢され、各地の公演に参加。アメリカに渡り、Atlantic City Ballet、Roxy Balletにプリンシパルとして在籍。「海賊」、「ドン・キホーテ」、「眠れる森の美女」、「くるみ割り人形」、「白鳥の湖」など、数々のクラシックバレエ作品およびコンテンポラリー作品にも出演。現在、バレエダンサーである妻と大阪に在住。全国のバレエ団やバレエスクールの公演にゲストダンサーとして出演。主役からキャラクターまで幅広くこなし活躍中。ジャパンバレエコンペティション、パドドゥ第1位。

公演スタッフ

Staff

演出・振付
演出(再演)
指 導

音 楽
舞台監督
照 明
音 響
大 道 具
舞台美術協力
衣装 協力

石田種生
若佐久美子
妹尾知代(元松山バレエ団、元妹尾知代バレエスタジオ主宰)
武藤天華(貞松・浜田バレエ団)
若佐久美子(若佐久美子バレエスクール)
P.I.チャイコフスキー
桑谷淳(出雲文化企画)
深田幹斗(出雲文化企画)
景井洋司(出雲文化企画)
好井和樹(ステージクリエイト)
メーカーズ・マーク
榎谷博子バレエスタジオ
ピーシーコスチューム
チャコット
貞松・浜田バレエ団(マーシャ・王子パドドゥ衣装)
ラルジュス
島根が生んだ石田種生の世界実行委員会衣装班

資料展示スタッフ

後 援

NPO法人 文化のタネ(大田市)
島根県、松江市、大田市、島根県教育委員会、松江市教育委員会、大田市教育委員会、
山陰中央新報社、新日本海新聞社、朝日新聞松江総局、
BSS山陰放送、TSKさんいん中央テレビ、日本海テレビ、
エフエム山陰、公益社団法人日本バレエ協会、
公益財団法人東京シティ・バレエ団(順不同)
島根が生んだ石田種生の世界実行委員会
公益信託 しまね文化ファンド
ごうぎん文化振興財団
フィューバレエスクール(出雲市)
ブリエールバレエスクール(安来市)
バレエ教室 リュミエール(松江市)
若佐久美子バレエスクール(松江市)
公益社団法人日本バレエ協会山陰支部

本事業に対して、ご後援・ご寄付・ご協賛を下さいました皆さまに、心より御礼申し上げます。(敬称略)

石倉 康好	石田 真知子	石田 律子	板岡 奈央子	伊藤 昌子	上野 美賀子
小村 茂芳	景山 庄幸	勝部 真知子	金見 美子	嘉本 慎也	北川 万結
木村 紀彦	小谷 恵子	古藤 心	古藤 覚	古藤 博昭	佐藤 明子
佐藤 啓一	千羽 真司	津森 美紀	西田 真奈美	原木 善二	福岡 拓司
福岡 美紀	(順不同)				

このほか多数の皆様にご寄付をいただいております。

若佐久美子バレエスクール開校以来、毎年指導に来ていただいていた安達哲治先生が、当時東京で石田種生先生にお会いになる度に、私の様子を伝えてくださっていました。それがきっかけで、石田種生先生との交流が始まったのです。

その安達先生よりこの度の公演開催にあたり、お便りをいただきましたので、ここでご紹介します。

若佐 久美子

この度の島根が生んだバレエの偉人、石田種生先生の「くるみ割り人形」全幕公演の実現までにおめでとうございました。地元から生まれた偉人作品を通してその優れた作品に触れ、そこから新しい島根のこれからに明るい未来を提示する公演と言えるでしょう。～中略～

私が10代中頃、舞台ゲイコ後、舞台のセンターに椅子を置き、座って客席の隅々まで見渡し、自分の立ち位置や、どう対処すべきか迷走している先生の姿に本物のプロの姿を拝見しました。その折、私はごあいさつし、先生の芸術に対する奮励にふれ、子供ながら心がゆさぶられました。

その後再開を果たしたのは私が18歳の時、丁度先生は新しい舞踊を目指し、東京シティバレエ団を有馬五郎先生や内田道生先生達と立ち上げた時期でした。古典と新しい創作や日本物の新作を立て続けに発表していきました。

その舞台ゲイコにいつも立ち会わせて下さり、どう演出すべきかを学ばせていただきました。

今日の私の核となっています。

本日の公演では石田先生がいつも伝える各ダンサーの役割やステップの意味、さらにはまわりとの関係性など感じる公演となることを願っています。

京都バレエ専門学校 主任教授
公益社団法人日本バレエ協会 元理事
ミタカバレエアカデミーディレクター

安達 哲治

島根が生んだ

石田種生の世界 実行委員会の歩み

- 2016年5月 公益社団法人バレエ協会山陰支部主催で、稲田奈緒美先生を講師として招いた講演会を開催し、バレエの歴史と合わせて郷土出身の舞踊家・振付家の石田種生を地元ダンサーたちに紹介する。
- 2016年6月 「島根が生んだ石田種生の世界実行委員会」を立ち上げる。また、石田生誕90周年に向けて記念事業を企画し、東京シティ・バレエ団を訪問し協力依頼をする。
- 2017年8月 公益社団法人日本バレエ協会山陰支部として、石田種生の作品「風花」を東京シティ・バレエ団、プリマバレリーナ志賀恵先生のもと、文化庁、公益社団法人日本バレエ協会主催「全国合同バレエの夕べ」に参加する。
- 2017年9月 大田市文化協会主催「石田種生のえがいたバレエ」に「風花」を上演。石田種生の作風の特徴を、解説を交えながら披露した。
- 2018年5月 東京シティ・バレエ団より、長谷川祐子先生を指導に迎え『白鳥の湖』のリハーサルを開始する。
- 2018年8月 文化庁、公益社団法人日本バレエ協会主催「全国合同バレエの夕べ」に山陰支部として「白鳥の湖」第2幕で参加した。
- 2018年10月28日 大田市民会館・大ホールで「島根が生んだ石田種生の世界」大田公演、資料展示を開催。
- 2019年3月23日 出雲市文化観光拠点形成事業～新・出雲の國づくり計画～に石田種生作品「風花」と「白鳥の湖」第2幕で出演。
- 2019年3月28日 島根県民会館・展示ホールでオープニングセレモニー、レクチャー・デモンストレーションとして「風花」を上演。
- 2019年3月31日 島根県民会館・大ホールで「島根が生んだ石田種生の世界」松江公演を開催。
- 2020年1月13日 出雲阿国舞踊集団による舞踊公演「大社文化プレイスうらら館出雲阿国舞踊集団による舞踊公演参加『白鳥の湖』第2幕、『お夏清十郎(パド・ドゥのシーンのみ)』を発表
- 2021年8月1日 北村香菜恵先生講習会
- 2022年2月26日 稲田奈緒美先生講演会(オンライン)
- 2023年1月28日 武藤天華先生講習会